

26年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成26年 11月20日～ 26年12月10日

2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は14社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 20.8	△ 29.2	△ 29.2
	マツ	△ 41.7	△ 41.7	△ 41.7
	広葉樹	△ 39.3	△ 32.1	△ 32.1
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 15.0	△ 30.0	△ 30.0
	マツ	△ 18.2	△ 27.3	△ 22.7
	広葉樹	△ 25.0	△ 16.7	△ 16.7
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	マツ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	広葉樹	△ 42.9	△ 39.3	△ 35.7

・チップ用国産原木は、スギ、ヒノキ、マツ及び広葉樹供に入荷、消費、在庫とも3ヵ月連続して減少。

(2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	26/12月	27年1月	2月
スギ・ヒノキ	20.8	20.8	16.7
マツ類	12.5	18.2	16.7
広葉樹	7.1	10.7	10.7

・チップ用国産原木購入価格は、全ての品目で3ヵ月連続してやや強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き) ・
 ・針葉樹原木が県内のバイオマス発電用に流れている。単価が高い。針葉樹原木の入荷悪く、生産調整、稼働率減少。在庫は針葉樹原木は、その日暮らし、広葉樹原木は横ばい。
 ・バイオ燃料が原木高のためか入荷が不調。在庫は大変不安。
 ・国有林の生産請負の遅れに伴い、民有林の広葉樹材も入荷が遅れる。消費は変わらず。在庫減少続く。
 ・針葉樹は森林管理署からの入荷増が見込まれる。在庫はやや増加。
 ・11月末より降雪が多く、山よりの出材がストップ状態。チップ生産は原木の入荷状態により生産している。
 ・木質バイオマス発電用に材が流れているため材の入りが悪い。
 ・バイオマスエネルギー利用との競合で入荷減。
 ・天候(雪)の影響が予測されるが、大きな変動はない。
 ・スギ、ヒノキ原木、FITの原木値上げにて、一般原木も値上げし、入荷が増加。消費は変動なし、入荷増で在庫も増加。
 ・スギ、ヒノキ間伐材等は変動なく入荷、国有林システム販売は40%が発電用枠、60%が製紙用枠で計画されている。広葉樹は、支障木を主に入荷は通常並み、マツは元々少量のため大勢に影響なし。消費は、針葉樹、広葉樹共に製紙用に出来た分だけ納入出来るのでフル生産。在庫は、スギ、ヒノキは発電用では積み増し、製紙用は減少、広葉樹も減少だが冬の時期は入荷増も期待できる。
 ・生産計画に伴った仕入、注文に応じた生産、加工。

(原木価格)

- バイマスとの競合、チップ工場毎の引合い強く、値上がりしている。
- スギは、入荷が少ないため少し上昇。
- 原木不足で入荷価格が少しずつ上がっている。
- 今月からチップ価格が上がったので来月から上げる。ただ、バイオマス発電の原木買取が上回っているため原料確保が難しいだろう。
- 広葉樹は12月よりやや上昇と予測。
- 変動なし。
- 発電用に備蓄する間伐材等は少し上がった。他樹種は変化なし。
- 落ち着いている状況。

26年12月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		26/12月	27年1月	2月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 30.0	△ 35.0	△ 40.0
	広葉樹	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 40.0	△ 35.0	△ 30.0
	マツ類	△ 31.8	△ 25.0	△ 30.0
	広葉樹	△ 33.3	△ 25.0	△ 29.2
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 25.0	△ 30.0	△ 30.0
	マツ類	△ 45.0	△ 45.0	△ 45.0
	広葉樹	△ 36.4	△ 36.4	△ 36.4

・木材チップに荷動きは、スギ、ヒノキ、マツ及び広葉樹共に生産、出荷、在庫共に3ヵ月連続して減少傾向。

(2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	26/12月	27年1月	2月
スギ・ヒノキ類	16.7	0.0	0.0
マツ類	12.5	0.0	0.0
広葉樹	3.6	0.0	0.0

・木材チップ出荷価格は、全ての品目において12月のやや強保合から27年1月、2月は横ばい。

モニターからのコメント

(木材チップ荷動き)

- ・針葉樹チップ、ピンチップは、原料の入荷悪く、生産減少、出荷減少、在庫減少。燃料用は、解体材の入荷減少、生産減少、製紙からの追加要請強く、古い製品在庫を切り崩して出荷、在庫減少。
- ・生産、出荷共に変わらないが、入荷が少ないため、今後の心配。
- ・広葉樹チップ用の不足により生産も減となる。出荷減少。
- ・出荷は、製紙用は少ないようだが、原料入荷減により対応しかねている。
- ・12月は燃料用チップが設備の故障のため停止となり、やや減少、1月、2月は変動なし。
- ・製紙、ボード用は、生産減、燃料用は安定。製紙、ボード用は原木高値にて採算面が合わず出荷減、燃料用は安定。FIT用原木入荷増でチップ生産を行えるが出荷先の受け入れ量の関係で在庫増、製紙、ボード用チップ在庫減。
- ・作った分は納入できフル稼働に近い。

(木材チップ価格)

- ・針葉樹チップは、製紙各社が11月～12月で値上げ実施。国内材増集荷しているが、集荷量上がらず、一部外材を緊急避難的に手当てしている。
- ・スギは少し上昇。
- ・変わらず。
- ・バイオマス用チップを上回るような価格を期待。
- ・マツ、広葉樹は11月よりやや上昇。
- ・変動なし。
- ・スギ、ヒノキは変わらない、今年は数回改定があった。広葉樹は変わらない、輸入品と比較するともう少し上げてほしい。